

# 第2学年 社会科学学習指導案

1 単元名 欧米の進出と日本の開国

2 単元指導計画（本時に関連する主な時間）

次	時	主な学習内容
1	1	近代に関わる年表や図表、写真資料などから、どのような時代かを考え、交流する活動を通して、近代日本の動きを大観するとともに、視点をもって追究の見通しをもつことができる。
2	5	イギリス・インド・清の貿易に関する資料からアヘン戦争が起こった背景を考察し、その結果を捉えることができる。

3 本時について（6／8）

(1) ねらい

江戸幕府が鎖国政策を転換し、開国した理由を調べる活動を通して、開国の理由には、欧米の発展やそれに伴う国力の差、当時のアジア情勢など、様々な歴史的事象が相互に関連し合っていることに気付き、多数の大名が開国に反対したにもかかわらず、「鎖国」の体制を転換せざるを得ない状況であったことを理解することができる。

(2) 評価規準

江戸幕府が開国した理由について、様々な視点から考察し、自分の言葉でまとめている。（思考・判断・表現）

(3) 学習展開

過程	学習活動	教師の指導・援助（留意点）
導入	1 ペリー来航時における日本の船と黒船の資料から、本時の学習内容に問題意識をもつ。 2 学習問題を確認する。	・単元で学んだ学習内容に関する資料を、協働学習支援ツールの「資料保管庫」に入れておく。
展開	なぜ江戸幕府は、長年続けてきた鎖国をやめ、開国したのだろうか。 3 課題解決の見通しを立てる。 ・アメリカの黒船を見て、欧米との力の差に驚いたのではないかな。 →【欧米の近代化】 ・「異国船打払令」の後、アヘン戦争での清の敗北を知って、「薪水給与令」を出していたことが関係あるのかもしれない。→【戦力の差】	【ICT活用の工夫】 ・大型提示装置に、ペリー来航時の日本の船と黒船を比較できるように示す。
	4 個人追究→全体交流 ・船や乗組員の様子を見ると、長さは約3倍、重さは約20倍、乗員数も3倍の違いがあって、戦っても勝てない。【欧米の近代化】 ・日本の江戸時代の人々の生活と「革命」や「産業革命」が起きた欧米の様子を比べると、機械化された工業などから、日本のとはかなりの力の差がある。【戦力の差】	【ICT活用の工夫】 ・生徒は、本時の資料以外に、各自のICT端末から協働学習支援ツールの「資料保管庫」にアクセスして、自ら資料を選択して、考えづくりを行う。 ・発言する生徒の資料を映し出し、根拠を明確にした発言につなげるようにする。
終末	5 別の視点から、さらに課題について追究する。 ・大名たちの多くが開港に反対していたにもかかわらず、幕府が開国を迫った理由が分からない。 ・反対意見が多かったのに、開国したのは、やっぱりアメリカとの国力の差があまりにも大きかったからだ。 6 学習をまとめる。 幕府が長く続けてきた「鎖国」政策をやめて開国したのは、黒船やアヘン戦争の結果などから「欧米の近代化」した強さを思い知ったからだ。さらに、今まで意見を求めてこなかった天皇や諸藩にも意見を求めるなど、国内での幕府の影響力が低下したことも原因だと考えることができた。	【ICT活用の工夫】 ・幕府が諸大名に意見を求めた事実を伝え、その回答が分かる資料を大型提示装置に示し、視覚的に捉えることができるようにする。